

大名細川家 700 年の歴史と出会う

Experience the 700 Year History of the Hosokawa Daimyo Family

永青文庫

令和 5 (2023) 年度 展覧会計画



©重要文化財「長谷雄草紙」(部分)、鎌倉～南北朝時代(14世紀)、永青文庫蔵

※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、展覧会の内容・会期等が変更となる場合がございます。
※ ご来館にあたって事前予約は必要ありませんが、混雑時はお待ちいただく場合がございます。

令和5年度初夏展

細川家の茶道具—千利休と細川三斎—（仮）

会期 = 2023年5月20日（土）～7月17日（月・祝）

休館日 = 毎週月曜日（ただし7/17は開館）

開館時間 = 10:00～16:30（入館は16:00まで）

侘茶の大成者・千利休（1522～1591）は多くの武将と交流し、茶の湯を指南しました。細川家とも関わりが深く、初代藤孝（ふじたか ゆうさい 幽斎、1534～1610）より親交を結び、「利休七哲」の一人に数えられる2代忠興（ただおき さんさい 三斎、1563～1645）は、高弟として利休の侘茶を継承しました。以降、細川家では茶の湯が嗜まれ、永青文庫には大名家伝来の様々な茶道具が所蔵されています。

本展では、千利休が所持していた「唐物尻彫茶入 利休尻ふくら」や「瓢花入 銘 顔回」をはじめ、利休と細川三斎ゆかりの名品を中心に、細川家に伝わる茶道具の数々を展覧。近現代の細川家四代（16代護立、17代護貞、当代護熙、護光）が手掛けた茶碗なども紹介し、代々受け継がれてきた茶の美意識に迫ります。また茶道具に関連する資料とともに、2021年に発見された武将茶人・古田織部（ふるたおりべ 1544～1615）が細川忠興に宛てた貴重な手紙を初公開します。

さらに、2023年は細川家にゆかりの深い沢庵宗彭（たくあんそうほう 1573～1645）の生誕450年にあたることから、沢庵の墨蹟を特別に展示します。



上段左より

1、○重要美術品「唐物尻彫茶入 利休尻ふくら」南宋～元時代（13～14世紀）

2、「瓢花入 銘 顔回」千利休作、桃山時代（16世紀）

3、「茶杓 銘 けつりそこなひ」細川三斎作、桃山～江戸時代（16～17世紀）

4、「黄天目 珠光天目」元～明時代（14～15世紀）

すべて永青文庫蔵

令和5年度夏季展

永青文庫の近代絵画

—セザンヌ「登り道」を起点に— (仮)

会期 = 2023年7月29日(土)～9月24日(日)

休館日 = 毎週月曜日(ただし9/18は開館し、9/19は休館)

開館時間 = 10:00～16:30(入館は16:00まで)

永青文庫の設立者・細川護立^{もりたつ}(1883～1970)は、文芸雑誌『白樺』を創刊した武者小路実篤^{むしやのこうじさねあつ}・志賀直哉^{しがなお}らと学習院の同級生であり、「白樺派の会計係」として支援していました。本展で久しぶりに公開するポール・セザンヌ(1839～1906)の水彩画「登り道」は、『白樺』に掲載されたのち、大正15年(1926)にヨーロッパ滞在中の護立がパリで購入した作品です。セザンヌ28歳の小品で、1874年の第1回印象派展以前の初期の作例であり、日本にもたらされた最初期のセザンヌと考えられています。

また護立は、梅原龍三郎^{うめはらりゅうざぶろう}(1888～1986)や安井曾太郎^{やすいそうたろう}(1888～1955)とも親交を結び、永青文庫には数百通もの書簡が残されています。本展では、そうした芸術家との交流から細川家に集った洋画を中心に、永青文庫の近代絵画コレクションの一面をご紹介します。



上より

5、ポール・セザンヌ「登り道」1867年

6、安井曾太郎「承徳の喇嘛廟」昭和12年(1937)

すべて永青文庫蔵

令和5年度秋季展

秘蔵！重要文化財「長谷雄草紙」全巻公開

—永青文庫の絵巻コレクション— (仮)

会期 = 2023年10月7日(土)～12月3日(日)

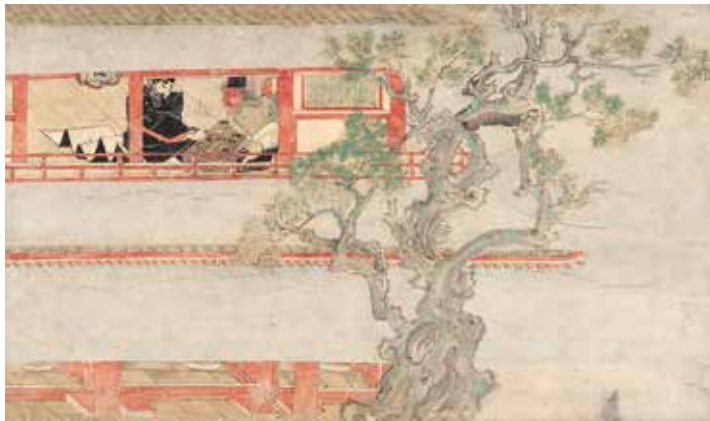
休館日 = 毎週月曜日(ただし10/9は開館し、10/10は休館)

開館時間 = 10:00～16:30(入館は16:00まで)

「^{はせおぞうし}長谷雄草紙」(鎌倉～南北朝時代、14世紀)は平安時代の漢学者・^{きのほせお}紀長谷雄にまつわる怪異な説話を題材にした絵巻です。江戸時代に徳川將軍家の宝物として秘蔵されていた一巻で、幕末維新期の混乱により長らく所在不明でしたが、昭和に入り、永青文庫の設立者・^{もりたつ}細川護立(1883～1970)の所蔵となりました。

この絵巻に描かれているのは、長谷雄と朱雀門の鬼との双六争い。見事勝利した長谷雄は美女を得ますが、鬼との約束を破って100日を待たずに美女に触れると、たちまち水となって流れ消えてしまうというストーリーです。双六の^{さい}賽を振る音が線で表されるなど、今日のアニメや漫画に通じる表現も見受けられます。物語はわずか5段と短く、内容も明快で、室町時代以降の短編小説「^{おとぎぞうし}御伽草子」の源流を示す貴重な作例とされています。

他にも永青文庫には、かつて熊本藩士の大矢野家に伝来した国宝「^{もうこしゅうらいえことば}蒙古襲来絵詞」(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)の模本など様々な絵巻が伝わっています。本展では、これまであまり公開の機会がなかった絵巻コレクションを通して、横長の画面に繰り広げられる物語の世界をたっぷりご紹介します。



上段左より

9、◎重要文化財「長谷雄草紙」(部分)、鎌倉～南北朝時代(14世紀)、永青文庫蔵

10、◎重要文化財「長谷雄草紙」(部分)、鎌倉～南北朝時代(14世紀)、永青文庫蔵

11、「蒙古襲来絵詞模本(上巻)」(部分)、文政4年(1821)、永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)

令和5年度早春展

中国陶磁の色彩 —2000年のいろどり— (仮)

会期 = 2024年1月13日(土) ~ 3月3日(日)

休館日 = 毎週月曜日(ただし2/12は開館し、2/13は休館)

開館時間 = 10:00 ~ 16:30(入館は16:00まで)

永青文庫には、漢時代から清時代までの中国陶磁100点以上が所蔵されています。それらのコレクションは、当館の設立者・細川護立^{もりたつ}(1883~1970)による蒐集品と大名細川家の伝来品からなり、所蔵品を通して2000年におよぶ中国陶磁の歴史をたどることができるのが特徴です。そのうち護立のコレクションは、鑑賞に主眼を置いた「鑑賞陶器」として中国陶磁の需要が高まるなか集められたもので、そこにいち早く価値を見出した護立は、「鑑賞陶器」蒐集の草分けの一人と位置付けられています。また当時の画家たちも中国陶磁に関心を持ち、蒐集するばかりでなく、自らの作品の題材としました。

本展では、主に護立が集めた中国陶磁より重要文化財3点を含む優品を展示し、唐三彩^{とうさんさい}、白磁、青磁、青花、五彩^{ごさい}など、色をテーマに中国陶磁を紐解きます。あわせて、洋画家・梅原龍三郎^{うめはらりゅうざぶろう}(1888~1986)が唐時代の「加彩女子」^{かさいじょし}に魅せられて描いた「唐美人図」を、関連書簡とともに紹介します。



上段左より

- 12、◎重要文化財「三彩宝相華文三足盤」
唐時代(7~8世紀)
 - 13、○重要美術品「加彩女子」
唐時代(7~8世紀)
 - 14、◎重要文化財「白釉黒花牡丹文瓶」
北宋時代(11~12世紀)
 - 15、○重要美術品「琺瑯彩西洋人物図連瓶」
清時代 乾隆年間(1736~95)
- すべて永青文庫蔵

貴社名：

媒体名：

ご担当者名：

ご所属：

TEL：

FAX：

ご住所：〒

E-mail：

掲載予定日： 年 月 日

掲載概要：(コーナー名、画像の掲載サイズなど)

- 読者プレゼント用チケット (5組10名様) ご希望の場合はチェックを付けてください。
※各展覧会の閉幕1ヶ月前までにご紹介頂ける場合に限らせて頂きます。
※チケットはゲラの確認後に送付いたします。

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。

- 1、○重要美術品「唐物尻彫茶入 利休尻ふくら」南宋～元時代 (13～14世紀)、永青文庫蔵
- 2、「瓢花入 銘顔回」千利休作、桃山時代 (16世紀)、永青文庫蔵
- 3、「茶杓 銘けつりそこなひ」細川三斎作、桃山～江戸時代 (16～17世紀)、永青文庫蔵
- 4、「黄天目 珠光天目」元～明時代 (14～15世紀)、永青文庫蔵
- 5、ポール・セザンヌ「登り道」1867年、永青文庫蔵
- 6、安井曾太郎「承德の喇嘛廟」昭和12年 (1937)、永青文庫蔵
- 9、◎重要文化財「長谷雄草紙」(部分)、鎌倉～南北朝時代 (14世紀)、永青文庫蔵
- 10、◎重要文化財「長谷雄草紙」(部分)、鎌倉～南北朝時代 (14世紀)、永青文庫蔵
- 11、「蒙古襲来絵詞模本 (上巻)」(部分)、文政4年 (1821)、永青文庫蔵 (熊本大学附属図書館寄託)
- 12、◎重要文化財「三彩宝相華文三足盤」唐時代 (7～8世紀)、永青文庫蔵
- 13、○重要美術品「加彩女子」唐時代 (7～8世紀)、永青文庫蔵
- 14、◎重要文化財「白釉黒花牡丹文瓶」北宋時代 (11～12世紀)、永青文庫蔵
- 15、○重要美術品「琺瑯彩西洋人物図連瓶」清時代 乾隆年間 (1736～95)、永青文庫蔵

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※画像の使用は、展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。貸与した画像は、使用後速やかに消去願います。
※展覧会名、会期、会場、作品名称、所蔵者を必ずご掲載ください。
※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみ使用いたします。
許可なく第三者に個人情報を開示することはございません。